

平成 27 年度文京区障害者地域自立支援協議会 相談支援専門部会検討内容

<実施状況>

- 第 1 回（平成 27 年 6 月 3 日）…当事者部会に諮る案件についての検討、文京区障害者基幹相談支援センターの事業計画、平成 27 年度定例会議の運営について、区内サービス等利用計画に関する現状報告
- 第 2 回（平成 27 年 9 月 24 日）…当事者部会からの報告、区内計画相談の進捗状況及び文京区指定特定相談支援事業所連絡会の報告、第 1 回定例会議の開催報告及び平成 28 年度定例会議の開催内容について
- 第 3 回（平成 28 年 1 月 28 日）…平成 27 年度相談支援専門部会振り返り、平成 27 年度定例会議の報告及び平成 28 年度定例会議のあり方について、平成 28 年度相談支援専門部会のあり方について、障害者（児）実態・意向調査アンケートについて、文京区障害者基幹相談支援センターの報告及び事務局からの報告

<検討内容総括>

(1) 10 年後の暮らしに対する希望や不安、心配なこと（当事者部会への諮問）

- ・現在の生活と 10 年後の生活を比べ、将来への希望や不安の声を聴かせて頂き、将来への福祉ニーズを抽出し、相談支援に活かしていく。
- 今の生活に幸せを感じている委員が多い反面、「10 年後の生活について」は、加齢に伴い 65 歳の区切りで自身の健康状態について不安を感じる声が多く聞かれた。
- 「10 年後、希望する生活をするために必要なサービス、人、お金について」の質問に対し、相談できる人、支援者、都営住宅等の安い賃貸住宅、生活保護等の福祉制度、自立するための生活訓練の場、という意見が挙げられていた。
- 「生活の中で頼れる人や、欠かせないサービス等について」の質問では、相談できる人（家族や支援者）、友人、仕事、生活保護等の福祉制度、という意見が多く聴かれた。

(2) 区内サービス等利用計画への状況について

- ・区内サービス等利用計画の実施率は低い状況である。
- ・指定特定相談支援事業所が増えない、既存の事業所にて新規利用者の受入れ困難な状況もあり、セルフプランでの対応が多くなっている。
- ・実施率や事業所を増やすことは望まれているが、計画内容の質の担保や人材育成も必要。

(3) 定例会議による従事者のスキルアップ

- ・今年度は予定通り全 4 回を実施。大きなテーマとして「サービス等利用計画と個別支援計画の違いを学ぶ」「アセスメントを学ぶ」という目的で実施した。
- ・事例検討という進め方以外にもグループワーク形式を取り入れたり、参加型研修という形式も初めて取り入れた。
- ・実施後のアンケートでは好評の意見が多数であった。
- ・来年度はより、ネットワーク機能、研修機能、地域の足りない資源を吸い上げて課題を相談支援専門部会へ提言していくことを強化していく。
- ・来年度の実施案として、ネットワーク構築・新人研修などのオープンな内容を 1 回。事例検討・地域課題抽出などクローズなテーマなどを予定している。

(4) 相談支援専門部会で抽出したニーズについて

- ・65 歳以上になった場合は介護保険優先のサービス支給となる。障害福祉サービスから移行に関する課題や不安はある。また移動支援の利用ができる範囲（就労先や通所については不可）の課題、障害児の計画相談から障害者への計画相談の移行の課題も上がっている。